

上関地点 平成25年度 環境監視調査結果について(報告書の概要)

平成25年度の調査結果については、環境基準、管理目標値など関係する基準値を満足していた。

項目		調査時期	調査結果概要	
水質	陸域工事排水の水質	月1回	水素イオン濃度、浮遊物質量とも管理目標値内であった。 ・水素イオン濃度:6.9~7.3 ・浮遊物質量:2~5mg/L	
陸生生物	ハヤブサ	4~6月:2回/月 2月:1回/月 3月:2回/月	鼻線島において、4月に3羽の孵化したヒナを確認し、5月下旬に2羽の幼鳥の巣立ちを確認できた。	写真1
	植生	春・夏 各1回 5月7, 8日 8月1, 2日	イヨカズラを7箇所21株, ジュウニヒトエを52箇所565株, イヌノフグリを6箇所79株, ギンランを2箇所5株, キンランを3箇所7株, ビヤクシンを1箇所1株確認した。	写真2
海生生物	潮間帯生物	年2回 4月25~27日 10月3, 4日	植物ではクロメ、イワノカワ科など51種、動物ではヒザラガイ、カメノテなど38種を確認した。 【確認種類数】・植物:春 48種, 秋 28種 ・動物:春 35種, 秋 31種	写真3
	海藻草類		クロメやワカメ、サビ亜科など60種を確認した。 【確認種類数】春 56種, 秋 31種	
	底生生物		サザエやムラサキウニなど6種を確認した。 【確認種類数】春 6種, 秋 4種	
	スナメリ	3月~10月 (週1回・計35日)	確認回数は計68回、確認頭数は延べ164頭を確認した。	
	カクメイ科等の貝類	年4回 5月8~10日 8月5~8日 11月5~7日 2月3, 4日	各季節ともにカクメイ科の貝類は確認されなかった。 タイドプール内の水質、底質については、顕著な変化は見られなかった。 落石の危険性があるため、安全を考慮して、タイドプール2箇所のうち1箇所 で調査を実施した。	

※準備工事の一時中断に伴い、平成25年度から調査項目および、調査頻度等を見直しています。

【参考】その他の環境調査

○カラスバト(写真4)

平成25年度の調査の結果, 計画地点では9月に1箇所鳴声を確認した。

なお, 鼻線島では, 5, 6, 11月を除く各月で姿や鳴声を確認した。

○カンムリウミスズメ(写真5)

平成25年度の調査の結果, 周辺海域において7回延べ10個体を確認した。

計画地点周辺海域において広く確認されたが, 工事施工区域内での出現はなかった。

【環境基準, 管理目標値一覧】

項 目		環境基準または管理目標値
陸域工事 排水	水素イオン濃度	管理目標値 : 5.0 以上 9.0 以下
	浮遊物質質量	管理目標値 : 日平均 150mg/L 以下

【調査写真】

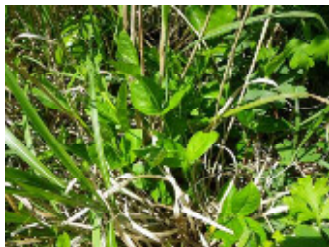
写真1:ハヤブサ

(4月23日 巣内の雌)



親から餌をもらう

写真2: 植生



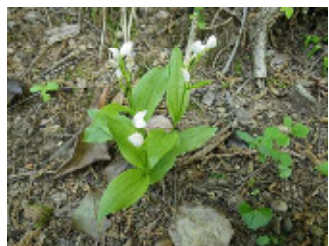
イヨカズラ



ジュウニヒトエ



イヌノフグリ



キンラン



ギンラン



ビャクシン

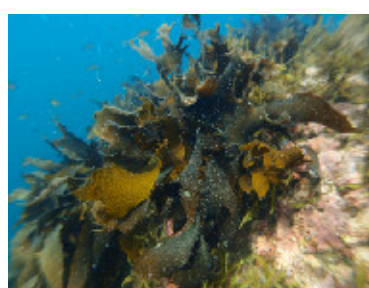
写真3:海生生物



カメノテ



サビ蛭科



クロメ



サザエ



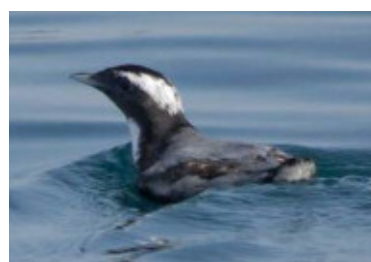
ムラサキウニ

写真4:カラスバト



(10月22日 鼻繰島)

写真5:カンムリウミスズメ



(2月5日 祝島の北東)

【H25年度環境監視調査結果に対する環境監視委員からの主なご意見】

項目	主なご意見
水質調査 (陸域工事排水)	各項目とも環境基準，管理目標値など関係する基準値を満足している。 なお，降雨時等でも沈殿池の濁度の上昇が見られていないことから，表層土壌は安定してきていると考えられる。
陸生生物 (ハヤブサ)	4月に3羽の孵化したヒナを確認し，5月下旬には2羽の幼鳥の巣立ちを確認できたことから，繁殖は成功したと考えられる。
陸生生物 (植生)	過年度調査の変動範囲内であり，顕著な変化はみられない。
海生生物調査 (潮間帯生物，海藻草類，底生生物)	経年比較すると，出現種数については，多少の増減はみられるが，過年度調査の変動範囲内であり，主な出現種も顕著な変化は見られない。
海生生物調査 (カクメイ科等の貝類)	カクメイ科の貝類は確認されなかった。なお，タイドプールの水質，底質については過年度調査の変動範囲内であり，顕著な変化はみられない。

以上